

## 地域とともにつくる地方仏の映像アーカイブと その普及・活用に関する研究

見 田 隆 鑑\*・柝 窪 優 二\*

Study on video archives of local Buddhist art made with the region and  
its spread and utilization.

Takaaki MITA and Yuji TOCHIKUBO

### はじめに

相山女学園大学文化情報学部の見田研究室と柝窪研究室では、2012年度から共同研究の形で、地域に伝わる仏像の映像作品を制作し、インターネットで公開する活動を始め、現在で約7年間活動を継続してきた<sup>1)</sup>。現在までの活動のうち、2013年度までの活動報告についてはすでに活字化している<sup>2)</sup>が、本稿ではこれまでの7年間で計52本の映像作品を制作してきたプロジェクト全体を振り返り、そこから見えてきた課題および今後の活動の展望を提示していきたい。

### 1. 仏像に関する各種メディアの状況について

2019年現在、仏像をはじめ仏教美術がとりわけ「ブーム」と言える状況なのかはよく分からないが、博物館で開催される仏像を対象とした特別展や企画展は非常に盛況で、仏像に限ったことではないが、そうした展覧会の開催に合わせてテレビ番組が企画・放映され、展覧会に対応した内容の書籍（主に雑誌や新書）が店頭に並ぶ傾向にある。

インターネットの普及もあり、出版業界では特に専門書や学術図書の販売は厳しい状況にはあるようだが、書店の仏教美術に関連する書籍を扱う棚には、中身は似たような内容ではあるが、マンガやイラストを多用するなど様々な切り口から仏像を含む仏教美術を紹介する一般書が比較的多く並んでいるようにも思われる。

博物館のミュージアムグッズを見ても、仏教美術関係の展覧会では、ポストカードなど仏像写真を中心とした従来型の商品の販売だけではなく、仏像のフィギュアをはじめ、ある種キャラクタービジネスのようなアプローチで作られた仏像関連のミュージアムグッズも並ぶようになっている点では、仏像の需要にも宗教的な関心や美術的な関心によるもの

---

\* 文化情報学部 文化情報学科

に限らず、多様な支持層が存在することが窺え、そのことはSNSをはじめインターネット上に見られる仏像ファンのコミュニティや、Twitterに投稿される様々なツイートの内容などからもその一部を窺うことができる。

また、近年の仏像調査では、X線CTスキャナ等を用いた科学的な調査が積極的に実施されるようになり、仏像の内部構造や像内納入品の発見がニュースとして報じられることが多くなった。こうした科学的な調査を背景とした「新発見」は、今後もそうした調査がなされるだけ数を増やしていくことになるだろうし、このような報道は、従来の写真や映像を通した仏像の表面的な形姿の魅力だけではなく、過去の様々な情報を内包する存在としての仏像の魅力や価値を、なお一層人々に伝えていくことになるだろう。

この他、奈良大学が公開している「Buddha Matching」のように、表情分析を応用したアプリケーション開発の事例なども出てきており、コンピュータの顔認証システムを応用した研究も今後更なる展開が期待され、そうした技術の活用を通した新たな発見も数多く紹介されるようになっていくことだろう<sup>3)</sup>。

## 2. 本プロジェクトでの映像制作のコンセプトについて



著者らの映像制作のコンセプトやその方法などは、過去に提示したもの<sup>4)</sup>とその後で特に大きく変化した部分はない。

映像作品としては、CGや再現映像などを用いた複雑な形式によるものではなく、寺院の姿、そこに安置される仏像の姿を映像と字幕・ナレーションといったオーソドックスな手法で紹介していくのである。また、長尺のテレビ番組とは異なり、YouTubeで動画を配信し、視聴してもらうことを前提とした作品を制作

していることから、一つ一つの作品の時間も4分程度で制作することを基準としている。

また、このプロジェクトは、大学と地域（もしくは文化財所蔵者）が連携して映像作品を制作することが前提にあり、映像制作には教員だけではなく学生が参加し、大学の教育研究活動の中で映像作品を制作し、その成果を地域に還元していく形で常にプロジェクトを進めてきた。

地域に残される仏像を映像化し、地域から発信する試みはあまり例がなく、本プロジェクトは、地域に残される文化財のうち特に仏像に焦点をあて、大学と地域が連携して映像制作を行い、映像作品の公開を通して地域に伝わる文化財をより多くの人に知ってもらう機会を作るとともに、通常公開が難しく十分に活用され難い状況にある文化財、あるいは地域にもあまり知られていない文化財の活用をはかることを目指している。

仏像を取り巻く昨今の状況を見たとき、先のような仏像をテーマとした特別展・企画展やSNS上での盛況ぶりの一方で、無住の寺堂を中心に、地域に祀られる仏像（あるいは神像）が、盗難の被害に遭う事件は後を絶たず、なおも課題として存在し続けている。そ

のことは、筆者らが活動している愛知県周辺でも例外ではない<sup>5)</sup>。

博物館の中には、例えば和歌山県立博物館のように、文化財の保護を呼びかける展覧会の開催や、独自に制作したポケットブック<sup>6)</sup>の頒布を通して仏像の盗難防止を呼びかけ、仏像の持つ価値について人々に理解してもらおう努力を継続的に行っている施設もある。そのポケットブックでは、仏像や文化財を守る為には「関心を持ってもらい、その魅力に気づいてもらうこと」が最大の力と指摘されている。

著者らが地域の仏像に関する映像アーカイブを制作するのも、その思いと通じるところがあり、より多くの人々が地域の文化、およびその遺産に目を向けるようになることが、将来的にも地域の文化財の保護・維持につながる力となっていくものと考えている。

また、視聴対象は大人だけではなく、例えば、学校教育あるいは家庭学習の場で映像が活用されることを通して、子供たちの地域文化や文化財に対する意識を育てることを可能とする一教材となることも期待している。つまり、こうした知財を今消費することに専念するのではなく、将来文化財を守っていくことになる次世代の人たちにその関心の種をまくことがとても重要だと考えている。

### 3. 地域と連携した映像作品の事例紹介

まず、著者らが映像制作を行ってきた中で、地域と連携する形で制作を行ってきた具体的な映像作品の事例を紹介したい。

#### (1) 愛知県稲沢市との連携

著者らの仏像の映像作品の制作は、愛知県稲沢市から始まった。この点は過去にも報告しているが、最初の段階では著者（見田）が寺院と直接、撮影の交渉をして映像制作を行っていたが、3本程度のパイロット版を制作した後に稲沢市教育委員会と協力関係を結び、撮影の交渉を初めとする寺院との連絡や撮影後の映像作品の確認を教育委員会の担当者に行ってもらいながら制作を進めていく形となっていった。また、映像内で使用するために必要な写真資料（例えば、秘仏の写真や像内納入品の記録）なども市教育委員会から提供を受けている。

稲沢市の仏像には国指定重要文化財が10件、愛知県指定文化財が12件、稲沢市指定文化財が17件ある。稲沢市内の仏像については、市指定文化財クラスまでを撮影対象とし、秘仏や盗難の危惧などの理由から撮影許可が得られなかった仏像や屋外にありアクリルボードで周囲が覆われている仁王像など現在の安置状況の事情から撮影が難しいと判断された仏像を除いた対象については2018年までにすべて撮影を終えている。

現在、公開している作品は下記の25本である。映像は、椋山女学園大学のYouTubeチャンネルおよび「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」で公開しており、稲沢市観光協会のホームページ<sup>7)</sup>のトップページにも「稲沢の仏像 多数掲載」という表示とともに「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」のバナーが設けられている。また、稲沢市では地元のケーブルテレビでも「稲沢市仏像シリーズ」の映像（一部）が放映された。

25本の映像作品のうち、2は現在、愛知県名古屋市中区にある七寺に安置される仏像ではあるが、当初は稲沢市内に存在した仏像であることから撮影の対象として選択している。

また、1～3については英語版も作成しており、3までの事例は既に過去に報告している。12の亀翁寺の映像については、2019年4月の秘仏開帳に合わせた改訂版の映像も1本公開しており、稲沢市に関係する映像は計29本公開している形となる。

また、14までの映像を収めたDVDを市長を通じて稲沢市内の3カ所の図書館に寄贈したこともあり、メディアでもその活動が紹介されている<sup>8)</sup>。本プロジェクトでは、SNSを通して映像作品を恣意的に拡散させることはしていない為、その活動を広く認知してもらうような呼びかけは特にしていないが、メディアに取り上げてもらうことで、他地域の人たちにも若干ではあるが本プロジェクトの活動を知ってもらえたように感じている<sup>9)</sup>。

〔稲沢市仏像シリーズ〕（2019年現在）

1. 青宮寺の木造聖徳太子立像 4：00
2. 七寺の木造観音菩薩・勢至菩薩坐像 4：10
3. 長光寺の鉄造地藏菩薩立像 3：50
4. 無量光院の木造阿弥陀三尊像 4：00
5. 安楽寺（船橋町）の木造釈迦如来坐像、木造阿弥陀如来坐像 4：20
6. 安楽寺（船橋町）の木造兜跋毘沙門天立像 3：38
7. 安楽寺（船橋町）の木造十一面観音菩薩立像 4：05
8. 安楽寺（奥田町）の木造阿弥陀三尊像 4：10
9. 国分寺の木造釈迦如来坐像（2体） 4：17
10. 萬徳寺の木造大日如来坐像 4：37
11. 法華寺の木造薬師如来坐像 3：45
12. 亀翁寺の木造虚空蔵菩薩坐像 4：10
13. 長暦寺の木造阿弥陀如来坐像（付：両脇侍）、木造大日如来坐像 4：00
14. 禅源寺の木造阿弥陀如来坐像 4：00
15. 安楽寺（奥田町）の木造阿弥陀如来坐像 4：30
16. 善應寺の銅造大日如来坐像 4：00
17. 長福寺の木造千手観音菩薩立像（付：両脇侍） 4：00
18. 加納院の木造阿弥陀如来及び両脇侍像 4：00
19. 観音寺（梅須賀町）の木造聖観世音菩薩立像 4：00
20. 常楽寺の木造如来坐像 4：00
21. 観音寺（松下町）の木造聖観音菩薩坐像、木造地藏菩薩半跏像 5：00
22. 慈眼寺の木造阿弥陀如来坐像 4：00
23. 明源寺の木造聖徳太子立像 4：15
24. 長福寺の仁王門と木造仁王像 4：00
25. 無量光院の木造不動明王立像、木造毘沙門天立像 4：15

このうち、17. 長福寺の木造千手観音菩薩立像の映像が、現在までに公開している計52本の映像作品すべての中で一番再生回数が多い作品となっている。

この作品だけ突出して視聴回数が多い明確な理由はよくわからないが、恐らくは2018年に東京国立博物館で「仁和寺と御室派のみほとけ」という特別展が開催され、そこに大

阪・葛井寺の国宝・千手観音菩薩坐像が出展された関係で、「千手観音」を検索した際に関連して出てきたこのYouTube動画がたまたま多く視聴された可能性があるのではないかと考えている<sup>10)</sup>。

2019年時点では稲沢市での撮影は休止している状況であるが、今後も状況を見ながら未撮影の尊像をはじめ、可能な限り撮影を継続していきたいと考えている。また、特に稲沢市では、指定文化財に関する映像制作がほぼ終わった段階のため、今後はそれらを地域の中で具体的にどのように活用していくことができるのかを検討し、次のアクションを起こしていく必要がある。

## (2) 愛知県大府市との連携

愛知県大府市との連携は2017年度から始まり、大学の社会連携センター経由で大府市歴史民俗資料館館長・大河内司氏からの社会連携の依頼を受けた中で、「大府市仏像シリーズ」のプロジェクトが進む形となった。

連携の形としては、大府市文化財保護委員会委員長・伊藤啓信氏を中心に行っていた市内寺院の悉皆調査への教員・学生の参加という方向性もあったが、筆者

(見田)のゼミの学生には仏像を対象とした卒業研究を行う学生がいなかったこともあり、仏像調査そのものへの教員・学生の参加という形での協力は難しく、「稲沢市仏像シリーズ」に続くプロジェクトとして市内寺院に伝わる仏像を紹介する映像を制作していく形となった。

稲沢市や名古屋市での撮影では、撮影対象の選択はすべて著者(見田)が行ってきたが、大府市に関しては大府市歴史民俗資料館の学芸員が寺院と撮影交渉を行い、撮影可能な寺院を年4カ所ペースで撮影していくこととなった。

大府市内には24カ所寺院が存在することから、すべての寺院を撮影することを考えると約6年間の活動ということになる。大学との連携による映像制作は、大府市の文化財保護関係事業の一つとして各年度の事業計画に組み入れ、現在で3年目を迎えている。

2018年には、文化財保護委員会委員長の伊藤啓信氏を中心とした市内寺院の悉皆調査報告書『大府市の仏像』<sup>11)</sup>が刊行されたこともあり、今後はこの報告書のデータを踏まえながら、撮影可能な対象について撮影を継続していく予定であり、またその撮影の機会に、像内の銘文の確認など、悉皆調査の補足的な作業も行えたらと考えている。

大府市の仏像には、愛知県指定文化財が1件、大府市指定文化財が6件ある。「文化財の宝庫」と呼ばれる先の稲沢市と比べると、大府市には文化財指定を受ける仏像は少なく、またこれまで撮影した中でも円通寺の馬頭観音立像や子安准胝観音立像のような市指定の仏像や、その他の無指定の仏像でも本尊となっている仏像が「秘仏」とされているケースも多いことから、大府市仏像シリーズの内容は、個々の仏像の魅力を取り上げて紹介していく形ではなく、文化財的な価値にこだわらず、寺院とそこに祀られる仏像の姿を紹介し



ていくという内容になっている。また、大府市では初回の撮影から寺院関係者へのインタビューを行わなかったこともあり、映像の中にインタビューを挿入しない形での記録方法に統一することにした。

大府市との連携で制作した映像作品のうち、2017年度から2019年度までに制作・公開した作品は下記の11本である。

また、著者（見田）が2018年度から大府市文化財保護委員に着任したこともあり、2018年10月に行われた知多地方文化財保護委員会において、「映像アーカイブで伝える大府市内の仏像」と題する発表を行い、常滑市・東海市・武豊町・美浜町・南知多町・阿久比町・半田市・知多市・東浦町といった知多地方の文化財保護委員に大府市での取り組みを知ってもらい、地域によってはこうした活動に関心を持ってもらうこともできた。

先にあげた稲沢市や次に取り上げる一宮市と同様に、大府市を起点に今後、活動を知多地方へと広げていくことができれば、大きな視座での映像アーカイブを構築していくことが可能となるかもしれない。

〔大府市仏像シリーズ〕（2019年現在）

1. 清涼寺 3:15
2. 極楽寺 3:30
3. 延命寺 2:30
4. 地藏寺 3:40
5. 大日寺 3:40
6. 常福寺 2:30
7. 円通寺 3:50
8. 浄通院 2:50
9. 普門寺 3:15
10. 東光寺 3:00
11. 光興寺 2:30

（このうち、3. 延命寺、4. 地藏寺、5. 大日寺、6. 常福寺、7. 円通寺、9. 普門寺の本尊や主要な仏像は秘仏とされている為、秘仏については未撮影もしくは前立のみの撮影となった。）

映像は、「稲沢市仏像シリーズ」と同様に、椙山女学園大学のYouTubeチャンネル、「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」（ホームページ）で公開しており、大府市では市のホームページに掲載される「市内寺院一覧」のページ<sup>12)</sup>に「市内の文化財を映像で保存継承し、後世に伝えていくアーカイブとして活用していきます。」というコメントとともに、外部リンクとして大学のYouTubeチャンネル、「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」（ホームページ）の情報が掲載されている。

### （3）愛知県一宮市との連携

愛知県一宮市との連携は、2015年に著者らが市博物館を訪問し共同プロジェクトを打診したことがあったが、その際は検討はなされたものの、諸事情から話しが進展することはなかった。その後、2018年に一宮市博物館で開催された「平成30年度博物館講座 尾張平野を語る 23 尾張の宗教」で著者（見田）が「一宮のほとけたち—地域の仏像に親しむ—」という講座を担当したこともあり、2018年12月に一宮市博物館に隣接する妙興寺の仏像の撮影について再度依頼をし、市博物館学芸員の仲介の下で撮影の許可を得ることができた。2019年2月に妙興寺にて取材・撮影を行い、5月に完成した映像をYouTubeと「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」（ホームページ）に公開するとともに、寺院に映像作品を収録したDVDを寄贈した。

一宮市との連携は、現状では市との公式な形での連携と言える形にはなっていないが、

市博物館の学芸員の協力と指導を仰ぎながら、可能な範囲で今後も撮影を継続していきたいと考えている。また、本プロジェクトを継続的に進めていく上でも、著者（見田）自身が積極的に同市内の文化財調査や文化財保護活動に協力し、地域との信頼関係を築いていくことも大切な方向性と感じており、2019年度は「地域博物館との連携による文化財の保存と活用に関する研究」という形で大学から研究助成（2019年度椋山女学園大学学園研究費助成金（B））を受け、映像制作とは別の形で大学と地域博物館が連携した地域の文化財の保存・活用への試みを進めている。

現在、公開している映像作品は下記の6本である。1.～5.までの映像は、一宮シティーケーブル（ICC）でも2019年6月から同年10月にかけて、週3回・月1作品ずつのペースで放映されることとなり<sup>13)</sup>、一宮市では大学と寺院と地域博物館が連携して制作した地域の文化財の映像を、さらに地元ケーブルテレビ局（ICC）の連携を通して、地域に発信できる形となった。映像作品はYouTubeやホームページ上で公開しているものの、インターネット環境がないという視聴者も多いことから、地域のケーブルテレビで放送される機会を得られたことはとても意義深いことと言える。

〔一宮市仏像シリーズ〕（2019年現在）

1. 妙興寺の仏殿 6：30
2. 妙興寺の開山堂 4：45
3. 妙興寺の勅使門・三門 4：30
4. 妙興寺の方丈 4：00
5. 妙興寺創建以前の仏像 3：30
6. 來薰院の聖観音菩薩像 3：45
7. 耕雲院の大日如来坐像 3：15
8. 耕雲院の不動明王立像 3：00

撮影した寺院は2カ寺ではあるが、妙興寺は非常に多くの文化財を有する寺院であることから、今回は境内の建物ごとにそこに安置される代表的な仏像や高僧像を紹介する形を取ることにした。

一宮市の美術工芸品（彫刻）には国指定重要文化財が3件、愛知県指定文化財が2件、市町村指定文化財が60件があり<sup>14)</sup>、稲沢市と同様に多くの文化財が残る地域であることから、可能な範囲で映像記録を残していけるように働きかけていきたい。

また、もともと稲沢市にあり名古屋市に移った七寺のように、一宮市でも江南市・大仏殿の木造阿弥陀如来坐像（旧真清田神社西神宮寺の本尊）や春日井市・退休寺の阿弥陀如来坐像<sup>15)</sup>のように、現在は他地域に移座している仏像が知られており、こうした仏像も「一宮市・仏像シリーズ」の撮影対象としていくことができたら理想的であろう。

現在の行政区では稲沢市、一宮市は別の地域ということになるが、尾張地域、あるいは旧中嶋郡という視点では、本来一つの地域として考える必要もあり、現在の行政区にとらわれず、尾張地域に残る仏像を総合的に記録していくことにも一定の価値があるものと考えている。

#### 4. 個別に制作した作品の事例紹介

次に、地域との連携の形は取らず、筆者らが個別に撮影を行ってきた事例を紹介する。いずれも映像は大学のYouTubeチャンネルと「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」(ホームページ)で公開している。

##### (1) 名古屋市内の仏像

先の稲沢市、大府市と同様に一地域の仏像を紹介する映像作品ではあるが、愛知県名古屋市内の寺院に安置される仏像に関しては、特に名古屋市との連携という形ではなく、各寺院と筆者(見田)が個別に撮影交渉を行いながらこれまで撮影を行ってきた。名古屋市内の仏像には現在、国指定重要文化財が5件、愛知県指定文化財が6件、市指定文化財が6件ある。

交渉の過程では、宗教的な事情から撮影許可が得られなかった仏像もあるが、現時点では無指定の仏像を含む下記の6本を制作、公開している。名古屋市内の仏像については現在も撮影途中である。

1. 七寺の木造観音菩薩坐像、勢至菩薩坐像 4:10
2. 栄国寺の木造阿弥陀如来坐像 4:00
3. 栄国寺の木造釈迦如来立像、木造阿弥陀如来坐像 4:00
4. 観聴寺の鉄造地藏菩薩立像(2体) 4:30
5. 願成寺の木造金剛力士立像 4:00
6. 雲心寺の木造阿弥陀如来坐像 4:00

※このうち、七寺に関しては稲沢市仏像シリーズと兼ねた形となっている。

##### (2) 研究対象を映像作品として記録した事例

映像作品の中には、著者(見田)が自身の研究対象として調査を行った仏像の中から選択して映像制作を行い、公開したものもある。

これらは特定の地域に伝わる仏像を記録していくものではないが、現在までに下記の3本の映像作品を制作、公開している。

また、これら3本はいずれも不動明王像に関する映像作品であることから、著者(見田)が管理している「デジタル明王図像集」(<http://bjvm.ci.sugiyama-u.ac.jp/vidya/>)というホームページでも合わせて掲載し、調査時に撮影した写真とともに映像作品を公開している。

1. 宮城県登米市・大徳寺の木造不動明王坐像 4:50

大徳寺の不動明王坐像は、東日本大震災の際に被災し、美術院で修理が行われて仏像が寺に戻って来た時期に撮影を行った。著者(見田)が被災前に調査を行ったことがある尊像であったことや、共同研究者の柝窪が東日本大震災の映像記録を制作していたこともあり、仏像ないし文化財の側面から震災の記録と復興へのメッセージ性を持った作品を作れないかという思いで制作した。震災に関連した作品ということもあってか、YouTube動画では、仏像シリーズ52本の中でも2番目に視聴回数が多い作品である。

2. 兵庫県神崎郡市川町・笠形寺の平安木彫仏 4:15
3. 東京都西多摩郡奥多摩町・将門山不動尊の木造伝三面不動尊立像 4:00



上記の2作品は見田が2018年度に仏像調査を実施した際、所蔵者（関係者）に映像作品の制作を依頼し、撮影許可を得られたことで撮影が可能になった作品である。

どちらも山中に残される仏像で、一般的にはあまり紹介されることのない仏像であるが、作品自体の価値やそれぞれに見られる個性的な造形から映像記録に残し、多くの人にその存在を伝えたいと感じた仏像であった。また、将来的にこう

した仏像を保存・継承していく上でもその存在をより多くの人に知ってもらうことが必要であろうと考えた。映像の中では、寺院住職や講の関係者へのインタビューを収録することを通して、明治の神仏分離時の状況や、地域における現在の信仰の姿を記録することを努めた。

## 5. 映像アーカイブの分析・評価

このプロジェクトでは7年間に計52本の映像アーカイブを制作した。それぞれ紹介する仏像やテーマが異なっていて、撮影環境やナレーターも違うので、作品全体の評価は難しい。そこで代表的な作品をモデルにした視聴者アンケート調査やプロジェクト関係者へのヒアリングなどをもと、映像作品の分析・評価を試みた。

### 5-1. 視聴者の作品評価

これまでに制作した代表的な作品「雲心寺の木造阿弥陀如来坐像」（長さ4分、2018年制作、住職のインタビューあり）を、一般市民と学生に視聴してもらう形でアンケート調査を実施した。対象者は、一般市民は計37人（2019年春期嵯山オープンカレッジ講座「仏像に出会う」受講者<sup>16)</sup>）、学生は本学メディア情報学科3年生以上73人（「映像ジャーナリズム論」履修者）で、無記名で回答を求めた。その結果は表1の通りであった。

表1 視聴者（一般市民・学生）へのアンケート調査結果

| 質問項目        | 回答対象          | 良い<br>回答数(割合) | まあ良い<br>回答数(割合) | 普通<br>回答数(割合) | あまり良くない<br>回答数(割合) | 良くない<br>回答数(割合) |
|-------------|---------------|---------------|-----------------|---------------|--------------------|-----------------|
|             | 【Q1】<br>構成・流れ | 市民            | 20 (56%)        | 13 (36%)      | 3 (8%)             | 0               |
| 学生          |               | 31 (42%)      | 34 (47%)        | 8 (11%)       | 0                  | 0               |
| 【Q21】<br>映像 | 市民            | 20 (54%)      | 14 (38%)        | 3 (8%)        | 0                  | 0               |
|             | 学生            | 29 (40%)      | 30 (41%)        | 13 (18%)      | 0                  | 1 (1%)          |

|                       |    |          |          |          |        |        |
|-----------------------|----|----------|----------|----------|--------|--------|
| 【Q3】<br>ナレーション        | 市民 | 18 (49%) | 10 (27%) | 9 (24%)  | 0      | 0      |
|                       | 学生 | 31 (42%) | 26 (36%) | 16 (22%) | 0      | 0      |
| 【Q4】<br>音楽？           | 市民 | 12 (32%) | 12 (32%) | 12 (32%) | 1 (3%) | 0      |
|                       | 学生 | 34 (47%) | 28 (38%) | 10 (14%) | 1 (1%) | 0      |
| 【Q5】<br>内容は<br>伝わったか  | 市民 | 24 (65%) | 9 (24%)  | 3 ( 8%)  | 0      | 1 (1%) |
|                       | 学生 | 29 (40%) | 35 (48%) | 8 (11%)  | 1 (1%) | 0      |
| 【Q6】<br>総合評価          | 市民 | 17 (46%) | 16 (43%) | 4 (11%)  | 0      | 0      |
|                       | 学生 | 26 (36%) | 41 (56%) | 5 ( 7%)  | 1 (1%) | 0      |
| 【Q7】<br>地域文化発信<br>の意義 | 市民 | 31 (84%) | 4 (11%)  | 1 ( 1%)  | 1 (1%) | 0      |
|                       | 学生 | 37 (51%) | 27 (37%) | 9 (12%)  | 0      | 0      |

アンケートに感想等の記入をお願いしたところ、下記の意見が寄せられた。

#### 【一般市民】

(内容・説明について)

- ・ 仏像自体の特徴的な点をもう少し詳細に説明されるような配慮が欲しいと感じた。
- ・ 仏像の顔、体つきや衣文の特徴などが加わると一層内容が濃くなるのではと思った。
- ・ 分かりやすいが、もう少し長くてもよいのではないか。細部にわたっての専門知識があってもよいのではないか。
- ・ 寺の地図やアクセス、沿革なども最初に提示されるとわかりやすいのではないか。
- ・ 仏像に関心のある方はよくわかると思いますが、広く伝えたい場合、例えば「丈六」という言葉などは仏像について知らない人には分かりづらいと思う箇所があるかと気になった。

(映像について)

- ・ 仏像の見所がアップされていて良いが、もう少しいろいろなところを加えてもらっても良いのではないか。時間が長くなるので難しいのでしょうか。
- ・ 仏像の横、後ろなど日頃目にすることができない角度からの撮影が可能であれば、取り組んでほしい。
- ・ 最後に下に流れるクレジットが少し見にくく感じました。
- ・ 映像の流れが少し速い。ゆっくりとカメラをまわして欲しい。細部も詳しく見せて欲しい。
- ・ 時間が丁度よい。

(ナレーションについて)

- ・ 落ち着いたナレーションで具体的に良く理解できる作品であった。
- ・ ナレーションのテンポが穏やかで聞き取りやすかった。
- ・ ナレーションはもう少しゆっくりでもよいと思う。
- ・ ナレーションがもう少しよくなるのではないか (全体の語尾、抑揚など)。

**【学生】**

- ・全体がわかりやすくまとめられていた。
- ・仏像は難しいそうだったけど、飽きることなく見られた。
- ・仏像を紹介する映像と音楽（BGM）が合っていた。
- ・映像のテンポがよく、もう少し見たいと思った。
- ・映像の長さはちょうど良かった、ナレーションも落ち着いていて良かった。
- ・地元（愛知）にこのような仏像があることは知らなかった。
- ・仏像の知識がない私からすると、少し流れが早く、言葉も難しかった。

**5-2. プロジェクト参加の行政担当者の評価**

行政担当者の評価として、稲沢市教育委員会事務局生涯学習課文化財グループおよび大府市歴史民俗資料館館長の大河内司氏より下記のような評価を受けた。

**【稲沢市教育委員会事務局 生涯学習課 文化財グループからの評価】**

稲沢市では、椋山女学園大学文化情報学部の見田研究室と栢窪研究室の共同制作による地域文化・仏像の映像作品制作が始められた平成24年度からこれまでに、18か寺に所蔵される国・県・市指定有形文化財（彫刻）29件について23本の映像にまとめていただきました。それらはバーチャルミュージアムとして大学のホームページで紹介され、市では観光協会のHPにリンクを貼らせていただきました。また、この映像を大学でDVD化されたものを市立3図書館に常備することで市民に貸し出すなど、普段一般には鑑賞することができない貴重な文化財の公開に役だっています。

**【大府市歴史民俗資料館館長・大河内司氏からの評価】**

市内の仏像調査を文化財保護委員中心に実施していたが、映像データとしてアーカイブ化するところまで至らない現状において、大学生が授業の一環として市内の仏像を映像として記録し、行政だけではなくインターネットを通じて様々な方に紹介できる環境を整備していただいたことについて、非常に感謝しております。また、市内の仏像のアーカイブ化が一段落したところで、資料館ホームページ上にて特設ページ等にて改めて紹介出来たらと考えております。

**5-3. プロジェクト参加の学生評価**

プロジェクトには栢窪ゼミ学生（3・4年生）がゼミ活動の一環として参加した。役割は、撮影補助者（照明・サブカメラの担当）、ナレーター、映像編集で、毎年数人の学生が参加している。今回は4年生と3年生の2人に、プロジェクトに参加した感想や完成作品についてヒアリングした。主な内容は下記の通りである。

**【Aさん：文化情報学部メディア情報学科4年生】**

栢窪ゼミに入って、ナレーションに力を入れたいと思い、ナレーションが最も難しい仏像シリーズの制作に参加した。とてもやりがいのあるプロジェクトで、自分にとっては新たな挑戦だった。撮影では、照明などのカメラ補助を主に担当した。普段は入れない場所で、貴重な仏像をすぐ近くで見られて良かった。撮影時はその仏像を映像でどのように伝えようかと考えていた。現地では寺の関係者とお会いして話をする機会も多く、そうした

面でも貴重な経験になった。ナレーション収録はとても難しかった。普段は使わない言葉が多く、イントネーションもわからない言葉もあった。誰にでもわかるような声で表現したいと思って原稿を読んだが、内容的にも、ナレーターとしても、とても深い部分があった。先生のアドバイスなどを受け、自分としては、それなりに満足できるナレーションができたと思っている。作品が完成したときは達成感が得られた。完成作品はとても満足している。4分程度の限られた時間なので、説明不足の点もあるが、はじめて仏像に向きあう人にとっては、見やすい映像になったと思う。地域文化・仏像を映像で広く伝えるプロジェクトに参加できて嬉しく思っている。自分もプロジェクト参加をきっかけに、日本の文化や歴史に関心や興味を持つようになった。(Aさんは2018年度～19年度に大府市と一宮市の撮影に参加、映像2本を編集、映像10本のナレーターを担当)



**【Bさん：文化情報学部メディア情報学科3年生】**

普段、見るできない仏像を、すぐ近くで見られることに魅かれ、プロジェクトに参加した。大学で学芸員資格の取得をめざしていて、今回は地元博物館の学芸員も参加するので、学芸員の姿を見たいという思いもあった。現地ではカメラアシスタント、主に照明を担当した。実際に参加して、カメラ撮影についての発見もあった。台本はあるものの、現場でアングルや構図などを考え、その場で判断して、撮影するということが分かった。光のあて方、照明は難しかった。普段入れない神聖な空間なので緊張したが、貴重な経験になった。自分が撮影に参加した作品のナレーションを初めて担当したが、とても難しかった。先輩のナレーションと比べると滑舌が悪く、言葉で伝えることは大切だと実感した。上手くできなかったことも多いが、何とか最後までナレーションを収録でき、自分の声の再発見にもつながった。チャレンジして良かったと思っている。今後はゼミ活動で積極的にナレーターに挑戦したい。完成作品については、満足できる映像だと思っている。初めて仏像に出会う人にとって、文化財に興味を持つきっかけになる映像になると思う。愛知県は寺院の数が多いと聞いているが、地域文化に対する関心は高いとは言えないので、こうしたプロジェクトの意義は大きいと思う。今後も仏像プロジェクトに参加したい。(Bさんは2019年度プロジェクト・一宮市の撮影に参加、「妙興寺・方丈」のナレーションを担当)

**5-4. 企画プロデューサーの評価・分析**

このプロジェクトで企画プロデューサーは著者（見田）が担当し、(1)撮影対象の選定、(2)行政担当者や文化財所蔵者（寺院、管理者）との撮影交渉・段取り全般、(3)撮影用の原稿の作成、(4)仏像や寺堂内の器物の移動をはじめとする安全管理を含む撮影時の現場での指示、(5)学生によるナレーション収録時の立ち会い、(6)仮編集映像の確認と修正箇所

示、(7)映像編集後の行政担当者や文化財所蔵者（寺院など）への映像確認の依頼・意見収集を主な役割として担当してきた。

7年間の活動の中で、まず(2)と(3)の部分に関して振り返ると、撮影交渉や実際の撮影時に大きなトラブル・事故等が発生することがなかった点がまずは良かった点と感じている。撮影では、須弥壇の上に登るなど、一般の参拝者や拝観者が立ち入ることが出来ない空間に踏み込んで作業を行っていることから、信仰対象でもある仏像を撮影するにあたっては相応の所作で臨むように指示を受けることもあったが、撮影および公開にあたって寺院関係者や文化財所蔵者から一定の理解を得ることができ、また完成した映像作品についても好意的な感想が多く得られた点はよかったと感じている。

また、このプロジェクトは、仏教美術を専門領域とする見田と、映像ジャーナリズムを専門領域とする柘窪が共同研究の形を取ることでその活動が始まったものではあるが、対象となる仏像の撮影許可が得られなければ前に進むことができない。その為、プロジェクトの推進には「地域」との関係性が不可欠な要素となっている。

特に、著者らと寺院や文化財所蔵者の間に立ってもらった行政の文化財担当者の積極的な協力、そして地域の中で職員の方々が寺院など文化財所蔵者と築いてきた信頼関係が、プロジェクトを円滑に進めていく上での大きな力となったことは疑いのない事実である。

また、こうした映像作品の撮影原稿（シナリオ）の作成にあたっては、これまでに地域で行われて来た先学たちによる文化財調査の成果から恩恵を受けていることも合わせて記しておかなければならない。

次に、著者（見田）が直接関係する(3)、(5)の部分について振り返ると、原稿の作成方法については、52本のどの映像作品についても基本的に導入→寺院の紹介→仏像の紹介→インタビュー→まとめという流れで1本4分程度を基準に原稿をまとめるように努めた。

しかし、作品によっては、対象となる仏像が三尊形式の仏像であったり、一つの場所に複数の仏像が安置されていたりすることもあり、その場合、やや長めの原稿となることもあった。

論文や報告書とは異なり、活字で読まれるわけではなく、主に聴覚情報として著者が書いた原稿の内容が伝わることを意識し、説明の仕方や語句の使用も注意は払ったが、実際にナレーションを入れる段階で学生が原稿を読み上げるのを聞き、最終的に修正を加えた部分も多くあった。その場合、映像を見れば伝わる内容について原稿の語句を省略することで、より伝わりやすい文章になるケースが多くあったように思われる。

著者（見田）の原稿は、撮影時の素描でもあり、撮影が必要な箇所の指示書の役割も担っている。しかし、撮影時には必要となった語句が、本編では不要な語句となるものもあり、その点は、撮影者（柘窪）やナレーションに関わった学生からチェックを受けることで、より視聴者に届きやすい内容へと補正されたと感じている。

1体の仏像であっても、寺院の紹介も含めて4分程度という時間内で紹介することを考えると内容を省略せざるを得ない部分もあり、そのあたりが特に専門家にどのように映っているのかは少し気かりではあるが、仏像の構造や当初部、後補部をはじめとする修理の状況などはこうした映像作品の中で必ずしも伝える必要はないと思われ、もし視聴者が更に詳しい情報に関心を持った場合は、既刊の県史や市史などに掲載される学術情報に目を通してもらえたらよいのではないかと考えている。

一方で、一般市民のコメントの中にも、もう少し詳しい解説を望む声や、各像の特徴的な造形表現や衣文表現も紹介して欲しいという声も見られた点では、特に仏像に関心を持つ視聴者や、カルチャーセンターなどの講座を受講して既に基本的な知識をもっている視聴者が一定数はいることを意識したシナリオ作りも今後検討する必要があるように感じた。どの程度の内容を情報として盛り込むのが妥当なのかは判断が難しい部分ではあるが、アンケートの意見を参考にしながら、今後内容を検討していきたいと考えている。

また、地図など、寺院へのアクセスについての情報が欲しいというコメントが数件あったが、どこに寺院があるのかはナレーションと字幕でも伝えている他、「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」（ホームページ）上では位置情報（地図）を解説文とともに掲載しているため、映像の中に地図などを入れ、アクセスについて説明する必要はないと考えている。

シナリオをもとにした映像の内容については、撮影時に必要な内容を確認しながら撮影していることや、チェック段階で映像の確認と修正を行っていることから、概ね伝えたい内容に即した映像が撮影され、編集されていると感じている。しかし、更なる向上を図る意味では、対象を撮影する角度やライティングの仕方など、「彫刻」としての仏像が持つ魅力をより引き出せるような撮影方法を探求する必要もあるように思われる。

また、学生のナレーションも、特にここ数年間は放送部等での活動経験がある学生や、音声に関わる専門的な教室で学んだ経験があるなど、音声表現に関心の高い学生がナレーションを担当したこともあり、ただ著者（見田）が書いた原稿をそのまま読み上げるだけでなく、実際に現地で内容を確認するとともに、原稿に書かれた内容を事前に読み込んで、自分の言葉にした上でナレーションの収録に臨んでくれたケースが多く、その分、聞き取り安い、伝わりやすいナレーションが収録できたのではないかと感じている。ただし、学生が担当するナレーションについては、個人差もあることから、年度毎にクオリティに変化が生まれることは避けられない部分ではあるだろう。

#### 5-5. 映像プロデューサーの評価・分析

映像プロデューサーは著者（柄窪）が担当し、カメラ撮影、映像編集、ナレーション挿入、選曲・音声調整、CG作成など、制作に必要な全ての工程をゼミ学生の協力を得て、大学スタジオで行ってきた。そうした視点で映像作品全体を自己評価すると、大学・研究室レベルの取り組みとしては、当初の到達目標はクリアしたと受け止めている。これは今回の視聴者アンケート調査などからも裏づけられている。これまで7年間にシリーズ映像を52本制作したが、作品ごとに撮影対象の仏像も、テーマも、カメラ撮影の環境も異なったが、作品ごとの完成度のバラツキは少なく、一定のクオリティを維持できたと思っている。映像の構成、特に作品の長さについては、インターネット公開を前提に4分程度を基本にしたことは妥当だったと思っている。

カメラ撮影については、全作品の撮影を著者（柄窪）が担当し、学生が撮影助手として照明などを担当する形で実施した。著者（柄窪）の専門はディレクター・プロデューサーで、カメラ撮影は本職ではないが、若い頃に短期間、テレビ局でカメラマンをしていた時期があり、そうした経験をもとに、最低限の役割は果たせたと思う。ただし現場での照明については、専門の照明担当者がいないことで不十分だったことも多かった。照明はミニ

ライトキット（400ワット）とLED照明で行ったが、カメラの撮影ポジションの変化に照明が対応できなくて、不要な影が出てしまったことも多かった。

映像編集については、ネット公開を前提にした短編映像（4分）なので、ある程度テンポ良く、映像に変化をつける形で編集した。一部からは「一つの映像カットを長くして、もっと落ち着いた映像が良い」という意見も寄せられたが、一般視聴者が興味や関心を持って見られる「変化のある映像」を意識して編集した。これについては、今後もさらに検証し、どのような映像編集がベストか、探っていきたい。

映像制作で大きな課題はナレーションだと思っている。これまで作品はすべて学生がナレーターを担当してきたが、仏像がテーマなのでナレーション原稿の言葉が難しい。プロのアナウンサーが挑戦しても難易度は高い。それを素人の学生が担当しているため、個人差が大きく、結果的にナレーションが「上手い作品」と「下手な作品」とに分かれてしまった。ただし、ある程度はナレーション担当の学生を指導することでカバーできることもあり、最近はナレーションのレベルはやや安定してきたと受け止めている。今後もそうした点に留意して、映像制作に取り組むたい。

## 6. 今後の課題と展望

### （企画側の課題と展望）

約7年間の活動を通して、映像作品の制作にあたっての流れは概ね確立されたように感じている。一方で、著者（見田）のシナリオ制作にあたっては、なお一層の向上が必要に感じる部分がある。例えば、《資料1》はこれまでの映像作品の中で紹介した主な仏像（あるいは肖像）の種類の一覧であるが、仏像の種類の内、主要な仏像はほぼ1回は作品の中に登場しており、特に阿弥陀如来や観音菩薩は複数回にわたって登場している。

また、如来や菩薩の姿の特徴の説明なども比較的多くの作品で重複して紹介しており、寄木造、玉眼の使用、盛り上げ彩色、箔押し、金泥塗りなどの技法の説明も比較的多くの作品で重複している部分がある。

一つの映像作品のシナリオ作成の中で、どの内容に重点を置いたシナリオを作成するかも今後、作品を増やしていく中で取捨選択していく必要があり、先の一般市民からのアンケート結果にもあるように、どのような仏なのか、何を表現しているのか、どのように作られているのか、など各仏像の基本的な情報の提示もさることながら、その仏像固有の造形上の魅力をもう少し伝えられるシナリオ作成を目指していく必要性を感じている。

ただし、個々の映像を視聴する人は、過去の作品すべてを視聴している人ばかりではないことから、ある一つの映像を初めて視聴する人にも、4分程度の内容の中で、紹介する仏像の概要が分かるようなシナリオ作成を目指していく必要がある。

《資料1》 仏像シリーズ50本の中で登場する仏像の種類・名称

| 如来像    | 菩薩像           | 明王    | 天部・垂迹神   | 高僧像<br>(頂相)・肖像 |
|--------|---------------|-------|----------|----------------|
| 釈迦如来   | 観音菩薩<br>(聖観音) | 不動明王  | 毘沙門天     | 聖徳太子           |
| 阿弥陀如来  | 十一面観音         | 大威徳明王 | 金剛力士(仁王) | 弘法大師           |
| 薬師如来   | 千手観音          |       | 青面金剛     | 大応国師           |
| 大日如来   | 馬頭観音          |       | 恵比寿天     | 大照禅師           |
| 名称不明如来 | 准胝観音          |       |          | 熱田大宮司夫妻        |
|        | 如意輪観音         |       |          | 十六羅漢           |
|        | 勢至菩薩          |       |          | 迦葉・阿難          |
|        | 地藏菩薩          |       |          |                |
|        | 虚空蔵菩薩         |       |          |                |
|        | 文殊菩薩          |       |          |                |
|        | 普賢菩薩          |       |          |                |

また、何かしら視聴者に訴える“メッセージ性”を持ったシナリオ作成を行っていくことも必要に感じている。つまり、シナリオのパターン化の中で、ある種、寺院と仏像の紹介映像という形が定型となり、7年という年月の中で一つの作品から何かを積極的に伝える、発信するという点でやや形式化してしまった部分があるようにも感じている。

「地域の中に優れた文化遺産が存在します」、「地域の中で大切に守り伝えられてきた仏像が存在します」といったことだけでなく、個々の仏像を通して、その仏像から伝えることのできるメッセージを何か一つでも視聴者に投げかけられるような切り口をシナリオに含めていけるように心がけたい。

その為には、次の映像制作側側の課題と展望にも指摘されるように、新たな映像構成への挑戦が必要となるだろう。企画制作者と映像制作者が良い意味でお互いが担当する内容に積極的に干渉していくことも、さらなる向上の為には必要となる段階と考えている。

#### (映像制作側の課題と展望)

映像制作側の課題としては、これからも地域文化をしっかりと伝えるクオリティの高い作品を作り続けることが重要だと考えている。視聴者アンケートの総合評価では、「良い」又は「まあ良い」と回答した人は全体の90%近くに達している。そうした結果からも、制作した映像アーカイブ52本のクオリティはある程度維持できたと受け止めている。ただし制作者として、常に一定のクオリティを維持することは難しいことなので、今後も全力を挙げて取り組んで行きたい。また映像構成についても工夫していきたいと考えている。これまでは企画側・構成案を制作側が微調整して撮影台本にしてきた。これは企画側・構成案の完成度が高く、大幅に変更する必要がなかったからである。しかしながら紹介する仏像によっては従来の発想を変え、視覚的な部分を最大限に生かせるような映像構成にするなど、新たに挑戦をしたい。また映像につける音楽(BGM)も改善したい。これまで

音楽は外部の音楽家に仏像シリーズ用に制作を依頼したオリジナル音楽（10曲程度）をリピート使用してきた。しかしながら、一つの映像作品に3~4曲使うので、同じ音楽が繰り返し使用されるようになってしまった。そこで2019年度に専門のMUSIC LIBRARY会社と契約して、利用できる音源を増やすことにした。2019年度後半からは新しい音源の使用も含めた選曲・音楽構成を進める。

今後の課題としては、映像アーカイブの活用を広げることが重要だと考えている。すでに椋山女学園大学 YouTube や「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」（ホームページ）開設などインターネット公開の環境整備は進んでいるが、アクセス回数はそれほど多くないのが現状である。これまで積極的に映像公開のPRや紹介をしてこなかったことも関係するが、プロジェクトの認知度はまだまだ低い。今後はコンテンツの活用を広げ、地域文化・仏像を積極的に映像発信することをめざして、プロジェクトを推進することが必要だと考えている。

## おわりに

以上、現在まで7年間のプロジェクト全体を振り返り、自己点検評価を行うとともに、学生や一般市民の評価も踏まえながら現状での課題および今後の展望について提示した。

様々な課題はあるものの、プロジェクト自体が腰折れすることなく、年間約6本ペースで映像制作を継続してくることができ、一地域から始めたプロジェクトが少しずつではあるが他地域へ活動範囲を広げていくことができた点では、一つ一つの映像制作の機会に着実に向き合ってきたことが、結果的に映像アーカイブとしての形をなしてきたことを感じており、特にプロジェクトの推進に理解、協力を受けた各地域の関係者、文化財所蔵者には謝意を表したい。

本プロジェクトは、大学とそこに所属する教員の研究活動が母体となっている点では、著者ら教員の在職期間だけを考えても、大学の中でこれらから数十年単位で継続することができる活動ではないことも事実であり、将来的には何か別の形で活動を引き継いでいくことも考えていかなければならないという大きな課題も存在している。

また、行政の担当者も部署の異動や定年退職に伴って人が変化するものであり、担当者の変化に伴い、活動のあり方も変化する可能性を含んでいる。さらには、文化財所蔵者である寺院も住職の代替わりや後継者の不在などの事情からその姿がこれからどのように変化していくか未知数な部分もある。こうした変化に合わせた活動のあり方も考えていかなければならない。

遠い将来を見据えつつ、今後の活動を通して、現在見えている課題をより良い方向に解決していくことができるよう、必要な改善を図っていくとともに、今後、他地域でも文化財等を映像作品として記録し、発信するような活動が行われるようになった際の指針となるような活動を今後も継続していきたいと考えている。

## 注

- 1) 7年間の活動のうち、2013年度は椋山女学園大学学園研究費（C）を2014年度は椋山女学園

- 大学学園研究費（A）の助成を受け、また、2017年度から2019年度は、科学研究費補助金・基盤研究（c）「地域とともにつくる地方仏の映像アーカイブとその普及・活用に関する研究」（研究代表者：見田隆鑑、共同研究者：栢窪優二）の助成を受けて活動を行っている。また、特に助成を受けていない期間については見田・栢窪それぞれの学内での個人研究費で活動を行ってきた。
- 2) 見田隆鑑・栢窪優二「地域に伝わる仏像のハイビジョン映像化とその活用に関する研究」（『椋山女学園大学研究論集』第45号，社会科学篇，2014年）
  - 3) 椋山女学園大学文化情報学部でも平成26年度に学園研究助成金〈B〉による研究として、向直人「顔認証技術を用いた仏像認識アプリの開発」という研究を行っており、筆者（見田）も分担者として参加した。<http://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/assets/docs/26mukai-b.pdf>
  - 4) 先掲註2論文もしくは「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」のコンセプト部分を参照。
  - 5) 本稿執筆中にも愛知県豊橋市にある十輪寺の木造地藏菩薩立像の盗難事件がニュースでも大きく報じられた。<https://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20190911/3000006675.html>（最終アクセス：2019年9月11日）
  - 6) <https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>
  - 7) <https://www.inazawa-kankou.jp>
  - 8) 2016年1月21日 中日新聞（朝刊）
  - 9) 「日々是古仏愛好（旧：神奈川仏教文化研究所）」のホームページ（<https://kanagawabunnkaken.web.fc2.com/index.html>）では、中日新聞の記事をきっかけに、特選情報の中で2016年1月30日に「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」を紹介していただき（<https://kanagawabunnkaken.web.fc2.com/index.files/topics/netkaiin.html>），また春日井市・退休寺の阿弥陀如来像の記事の紹介項目でも、稲沢市の仏像の情報が見られるサイトとして「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」を紹介していただいている。この場を借りて御礼申し上げます。
  - 10) 実際にテレビ放送で使用されることは無かったが、テレビ番組の制作会社から葛井寺の千手観音菩薩坐像に関する放送の中で、千手観音について説明する映像にYouTubeに公開していた長福寺の千手観音菩薩立像の映像を使用したいという依頼もあった。
  - 11) 大府市文化財保護委員会仏像調査報告書『大府市の仏像』（大府市文化財保護委員会，大府市歴史民俗資料館，平成30年10月）
  - 12) [https://www.city.obu.aichi.jp/bunka/kanko\\_rekishi/1007228/index.html](https://www.city.obu.aichi.jp/bunka/kanko_rekishi/1007228/index.html)
  - 13) ICCでは、妙興寺の映像だけではなく、稲沢市仏像シリーズを始め、大学から提供した「仏像シリーズ」の映像を放映している。
  - 14) 平成30年8月22日現在。この彫刻の数には仏像以外の彫刻も含む。
  - 15) 山本勉・小野佳代「愛知県春日井市・退休寺の久安二年銘阿弥陀如来坐像」Museum（667），2017年
  - 16) この講座は、社会人向けの講座で全体の男女比は男4：女6，年代は40～50代が10%，60代～70代が80%，80代以上が10%である。